

登山・登攀の記録

南紀 大塔川 黒蔵谷～高山谷

日時:1987年9月7日～9月9日

メンバ:CL 佐藤、下西

概要:岩登りは、中部山岳方面にまで足を延ばさなければロングピッチの登攀はできない。それに引き替え沢登りでは、近場の南紀地方に比較的距離が長く、水量の多い沢が多い。また、私にとって、沢登りの醍醐味は、滝の登攀よりも徒渉や水泳突破にあると考えているが、大塔川の黒蔵谷とその支流高山谷は、登攀技術はあまり必要としない一方で、人並みの水泳技術があれば遡行可能であり、加えて、魚の生息量が多く溪流釣りを楽しめる期待もある。そういう点に惹かれてこの沢を選んだ。

記録

9月7日 曇時々わか雨

紀伊田辺(11:00)－四村川水系 小々森(13:30)－大塔川水系 静川(14:30)－黒蔵谷出合(15:30)

紀伊田辺からバスで小々森まで行く。ここから峠道を辿って山を越え大塔川へ下り立った。曲りくねった道は何か南アルプス南部の沢を感じさせる。林道を1時間歩いて黒蔵谷出合へ着いた。期待とは裏腹に水量は少ないが、ウグイをたくさん釣り上げることが出来た。

9月8日 曇時々わか雨

黒蔵谷出合(7:00)－高山谷出合(13:00)－八丁瀬(14:00)

出合いから約5分で鮎返しの滝。ここからは高山谷出合までずっと廊下である。滝は右岸から巻き、間もなく廊下に突入する。廊下の中は、川幅が狭いため水深は深いが、水流がほとんどないため、水圧はあまり感じられず、水泳での突破は楽々出来る。なお、廊下は容易に巻いたりへつったり出来るが、ぬめりが多くボリの草鞋ではかなりすべり易く、また、泳ぐ方が楽しいので、廊下のほとんどを泳いで突破する。20mほどの淵が三連続し、そのほか大きな釜を持つ滝が次々と出てくる。水泳に次ぐ水泳である。泳いでいると何かがジャージを突ついてくる感触があり、不思議に思い廊下に引っかかった流木に掴まり止まっていると、アブラハヤが多数(30匹以上?)集まって来て、ジャージをくわえている。ジャージに穴が開いては困るので、直ちに脱出する。水泳を堪能して嫌になる

頃、高山谷出合に到着。八丁瀬の先の河原をサイトに決める。

9月9日 晴

T.S(7:00)－植林道(9:00)－四村川水系 大瀬(12:00)－紀伊田辺(15:00)

歩き出すと間もなく廊下に入る。ここもほとんどが水流(水泳)突破できる。しかし、途中から、下西が膝裏に痛みを訴える。痛みは水泳の時だけで、歩行時には問題ないようだ。廊下を抜けると谷は明るくなり、異様なナメが延々と続く。しばらく進むと、林道が沢を横切る地点があり、その林道をたどって尾根を1本越え、四村川水系に下山した。

(記/佐藤)